

我がまち九度山を愛する心をはぐくむ教育の推進

九度山町教育委員会（和歌山県）

1. はじめに

九度山町は、和歌山県北部に位置し、大台ヶ原を源とする紀ノ川の左岸に接している。平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として登録された「高野参詣道（町石道、黒河道）」「慈尊院」「丹生官省符神社」の世界遺産や戦国武将真田昌幸・幸村父子ゆかりの「真田庵」などの文化遺産と、「椎出の鬼舞」や「傘鉾」などの古くからの民俗芸能、玉川峡（県指定文化財）をはじめとする美しい自然に恵まれている。また、特産品である柿は「日本一の富有柿」として有名である。

本町では、恵まれた自然環境や文化遺産等について学習し、地域の素晴らしさに気付き、郷土への誇りや地域への愛着の想いを高めるため、各園・学校における「ふるさと教育」の推進を進めている。



▲慈尊院

▼真田庵



2. 教育目標

●九度山町における学校教育目標

豊かな人格の形成を図ることを主眼として、人間尊重を基盤とした心のふれあう充実した教育を通して「生きる力」をはぐくみ、主体的に生きていく元気な児童・生徒を育てる。

- (1) 自己実現を目指し自立する子どもの育成
- (2) 人を思いやる心豊かな子どもの育成と自ら体を鍛える子どもの育成
- (3) 確かな学力と深い学びのできる子どもの育成
- (4) 共生と公共の精神に富み、社会の形成に主体的に参画する子どもの育成
- (5) ふるさと学習を通して地域の文化や伝統を重んじ、国際社会に貢献する子どもの育成

3. 教育委員会・学校での取組

●中学校における探求的な学習

中学校1年生はこれまで小学校で学習した地域の文化財や歴史などさらに深く探求することにより地域の良さを見つける課題を克服する力を養います。生徒は、自らが役場職員や文化財の管理者を訪れ研鑽を深めています。学習したことをまとめ在校生に発表をしています。



●中学校における地域学習

九度山町には戦国武将「真田幸村」「真田庵」などの史跡があり、それぞれが課題意識をもち、識見のある方にお話を伺いながらその魅力の発信や、文化財を守る姿勢を身につけている。



●小学校の取組～高野紙の紙すき体験

例年、6年生が町内にある「紀州高野紙伝承体験資料館紙遊苑」で、各自の卒業証書となる手すき和紙作りに取り組んでいる。

和紙は大変丈夫でこどもたちにとって思い出がついた証書となっています。



●九度山町の柿の収穫体験

特産である九度山町の柿について学びを深めるために、地域の方に御協力いただき、収穫体験させていただいている。小学校では町内の選果場もおとずれ食育につなげるなど系統的な学習にもつなげている。



●小学校の取組～紀の国緑育推進事業～

九度山町の森林で働く人々から説明を受け作業体験する中で、森林を守り育てることを学習します。(5年生)



4. おわりに

子どもたちは、身边に世界遺産や文化遺産が豊富にあることを感じたり、地域の産業への関心をもち、そのよさや課題の解決に向けた深い学びにつながっているといえる。インターネットや書籍を通じて学習したことをもとに、体験的な活動を大切にしながら、発達段階に応じて外部の専門家に的確な質問をする意欲的な姿勢もみられる。次年度は社会科副読本の改訂を計画している。この機会をもとにさらに九度山町では、子どもたちに地域を愛する気持ちを育てるだけでなく、自分たちにできることは何かを考える力と行動力を育んでいきたい。